



## 世界・社会の「いま」を考える連続講座

zoomを利用した講座では受講生限定でアーカイブ配信もあります。

- 01 テック・ジャスティス——AI時代の差別・人権・民主主義
- 02 「自由と平等」の国の帝国主義
- 03 人権を保障するのは誰か？——国家・国際社会の枠組みの限界と希望
- 04 パレスチナをどう学ぶ？教える？  
——"Teaching Palestine: Lessons, Stories, Voices"を読む
- 05 「共に生きる」ための社会調査——川崎の地域実践から学ぶ
- 06 農と食の民主主義を実現する

## 少人数で学べる！語学講座

- 07 アイヌ語を学びつつ、日本語の問題としてとらえかえす
- 08 ラテンアメリカ先住民の言語と文化を学ぶ  
——メキシコ最大の先住民言語ナワトル語を知る
- 09 世界のニュースから国際情勢を読み解こう
- 10 ルイースの“Let's talk about the world!”

## 顔をあわせての交流を楽しむ！対面講座

- 11 鎌田慧 時代を描く・ルポルタージュの現場から
- 12 畑で実践!! 〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培
- 13 ビオダンサ——いきる・おどる・めぐる
- 14 表現することは生きること

## 国内エクスポージャー

- 中津川浩章さんといくアートをめぐるフィールドワーク in 関東／in 関西
- まるごと知ろう・足尾鉍毒事件と田中正造ツアー
- アクションツアー沖縄2026
- 社会的連帯経済を探す旅2026

PARC  
2026

Pacific Asia  
Resource Center  
Freedom School

PARC 自由学校 2026 講座一覧

イラスト：生駒さちこ デザイン：清水肇 (prigraphics)

# テック・ジャスティス ——AI時代の差別・人権・民主主義

1990年代後半以降に急速に進化したデジタル技術は、私たちに多くの機会や利便性を提供しています。一方、これらの技術は犯罪や人権侵害の手段となり、また偽情報・ディープフェイクが社会の分断と民主主義の危機を生み出してもいます。さらにアテンションエコノミー（関心経済）を牽引する巨大IT企業による市場の寡占と富の集中も加速しています。

こうした課題を克服し、公正で倫理ある技術をどうやって社会に導入できるのか。国内外の最新の議論と実践を紹介しつつ皆さんで考えます。

2026年7月～10月

原則として隔週火曜日 19:00～21:00

●全8回 ●開催形式:オンライン(zoom)

●受講料:28,000円(U25割:5,000円)



講師&コーディネーター 内田聖子 PARC共同代表

貿易・デジタル分野を中心に調査研究・政策提言を行う。著書に『デジタル・デモクラシー ビッグ・テックを包囲するグローバル市民社会』地平社 2024。共著に『デジタル改革とマイナンバー制度 情報連携ネットワークにおける人権と自治の未来』自治体研究社 2022。

## 7/14(火) AIが私たちに問うもの

——差別と公平性、倫理



成原 慧 九州大学法学研究院・法学部員准教授

なぜAIは差別や排除をしてしまうのか。そのメカニズムを読み解き、AIを含むデジタル技術がもたらす課題を明らかにします。「人間の尊厳」と「個人の自律の尊重」を埋め込むAI開発の方法についても考えます。

【主著】『テクノロジーと差別: ネットヘイトから「AIによる差別」まで』(共著)解放出版社 2022 / 『AIで変わる法と社会: 近未来を深く考える』(共著)岩波書店 2020

## 9/15(火) AIデータセンターは持続可能か?

——環境、資源、民主的管理の課題と市民ネットワーク



寺西俊一

一橋大学名誉教授 / 「都市型データセンターあり方検討会」座長



伊瀬洋昭

日野市環境審議会市民委員

今川草乃花

大阪大学大学院  
人間科学研究科  
修士課程



生成AIの興隆の裏で、大規模なデータを処理するためのハイパーデータセンターが世界各地で急増しています。土地、電力、水などを大量に消費するデータセンターは地球や地域、人々の暮らしと折り合いがつかぬものでしょうか? 日本の事例も含め学びます。

【参考】「都市型データセンターあり方検討会」のウェブサイト

<https://urban-datacenters.studio.site/>

## 8/4(火) デジタル性暴力から人権を守るための 新たなAI技術



金尻カズナ

NPO法人ぱっぷす(ポルノ被害と性暴力を考える会) 理事長

ネット上のリベンジポルノやディープフェイクポルノによって多くの女性や子どもが人権侵害に遭っています。被害者の支援や削除要請の活動と、これら映像・画像を探し出すAI技術開発の取り組みを紹介します。

【参考】NPO法人ぱっぷすのウェブサイト: <https://www.paps.jp/>

## 9/29(火) 日本のデジタル政策の現場から

——なぜビッグテック規制が進まないのか



若江雅子

朝日新聞東京本社 編集委員

AIを含むデジタル技術について各国は規制案を模索しています。巨大IT企業が米国、中国に集中する中、日本はどのような立ち位置で、政府はどのような政策をとろうとしているのでしょうか。政府や国会での議論のリアルからお話しいただきます。

【主著】『膨張GAFAsとの闘い デジタル敗戦 霞が関は何をしたのか』中公新書ラクレ 2021

## 8/18(火) 偽情報から公正な選挙・言論を守る

——琉球新報のファクトチェック・フェイク監視



南 彰 琉球新報 記者・編集委員

偽情報や生成AIによるディープフェイクは、民主主義の根幹である選挙に影響を与えたり、SNS上の攻撃や対立を加速させています。メディアの現場ではこれにどう対峙しているのか。実践と課題を考えます。

【主著】『絶望からの新聞論』地平社 2024 / 『安倍政治 100のファクトチェック』(共著)集英社新書 2018

## 10/13(火) 民主主義を深化させるための技術

——シビック・テックの可能性

講師調整中

法規制や企業の自主規制によるAIの統治だけでなく、人権や民主主義という価値を予め埋め込んだ新たな技術開発と運用の試みは世界各地にあります。それを担うシビック・ハッカーの活動やデジタル民主主義の実践事例から希望の芽を探します。

## 9/1(火) AI時代の労働者の権利——プラットフォーム ビジネス、労務管理の実態と労働組合の活動



浦田 誠 労働ジャーナリスト

アプリ一つで管理されるギグ・ワークや、採用や人事査定でのAI利用が当たり前になった現在。労働者はどのような権利を守っていく必要があるのでしょうか。海外の労働組合活動の事例からも学びます。

## 10/27(火) 公正な技術を求めて——デジタル封建制・ デジタル植民地主義を克服するための視点



内田聖子 PARC共同代表

技術が生み出す人権侵害や差別、労働の搾取はどの国にも平等に生じているわけではありません。デジタル封建制やデジタル植民地主義とは何を指すのか、私たちは誰とどのようにつながり運動をしていけるのか、グローバルサウスの視点から考えます。

アメリカ合衆国  
「自由と平等」の国の帝国主義

米トランプ政権は、時に大統領の稚拙な思い付きで予測不能な行為に出るかのように報じられます。しかし、米国の軌跡を振り返れば、トランプ政権の行為はこれまでのルールから大きく外れるものではなく、むしろ繰り返しやちょっとしたアレンジに過ぎないように見えてきます。

これまでの文脈に〈今〉を位置づけてみることで、トランプの性格だけでは済まされない、「自由と平等」の看板の裏でうごめく米帝国主義の本質を見据えます。

2026年6月～10月 月曜日 19:00～21:00

- 全7回 ●開催形式:オンライン(zoom)
- 受講料:25,000円(U25割:5,000円)



コーディネーター 田中 滋 PARC事務局長・理事

米国コーネル大学大学院在学時からACORN (Association of Community Organizations for Reform Now)をはじめとする米国における低所得者層を支援する社会運動に関わる。帰国後は環境NGO A SEED JAPAN事務局を経て現職。社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク(RIPESS)やアジア太平洋調査ネットワーク(APRN)など国際的なNGOネットワークの理事も担う。

## 6/22(月) ブッシュのイラク、トランプのベネズエラ



太田昌国 編集者/民族・植民地問題研究者

2026年1月3日、米国はベネズエラに急襲をかけ、マドゥロ大統領を拉致しました。米国の利権を守るための勝手な軍事侵攻と政権交代を仕掛ける一連の行動は、イラク戦争の再来でしょうか？ ラテンアメリカに対する軍事介入の歴史の延長線に存在する行動と読むべきでしょうか？ ラテンアメリカにとどまらない米帝国主義の「支配権」確立の背景を読みみます。

## 8/31(月) 太平洋の軍事最前線と民衆の抵抗

講師調整中

2025年4月、トランプ政権は太平洋の排他的経済水域に対する主張を強めるべく大統領令を発行しました。先の戦争に次いで、またも米国は太平洋を戦火に巻き込むための布石を展開しています。米国と中国はともに原子力潜水艦を太平洋海域に配備するために動いており、太平洋は水面下の火薬庫の様相を呈しています。恐れず立ち上がる太平洋の市民社会の動向をご紹介します。

## 7/6(月) 内向きの帝国主義——マイノリティ制圧のために権力者が有権者を選ぶ選挙制度



庄司 香 学習院大学法学部教授

ベネズエラ襲撃、グリーンランド侵攻の示唆やイランへの攻撃は、決して米国国内でも支持されている政策ではありません。それ以外にもトランプ政権の支持率は就任以来50%を超えたことはありません。国内外で暴君のように振る舞うトランプと共和党が権力を掌握するには、「内向きの帝国主義」に頼らなければならないようになってきました。その象徴ともいえる選挙制度への攻撃とは？

## 9/14(月) 新自由主義から保護政策へ!?——混迷する世界経済の中で民主主義への道を探る



大屋定晴

北海学園大学経済学部教授

戦後、ブレトンウッズ体制とGATT・WTO等を通じて新自由主義を世界に振りまいてきた米国の経済覇権。そこから一転したかのようにも見えるトランプ関税政策。それは新自由主義からの思想的脱却なのでしょうか？ それとも多極化する世界経済で権力にしがみついた米国民衆からの示威行動なのでしょうか？ 少なくとも、「反グローバル資本主義」を訴えた民衆運動が目指したところは今のトランプ時代ではありません。では混迷する世界経済の中で富と権力の集中に抵抗して民衆的な経済へと到達する道筋はどこにあるのでしょうか？

## 8/3(月) AI時代の絶望工場——フォードからAmazonへ

浦田 誠  
労働ジャーナリスト

中山智香子

東京外国語大学  
総合国際学研究院教授

第二次トランプ大統領就任の際、トランプの後ろには何億ドルも寄付をしたテック大富豪がずらりと並びました。そして、就任後間もなく、テック産業の便宜を図るために、規制行政は徹底的に解体されていきました。振り返れば産業革命以降、効率性が金科玉条のように唱えられ、人間を限りなく歯車化させようとする経済思想が蔓延していきました。民衆を管理監督したいと求める資本家階級と政権との癒着は不可分でした。組織化された労働運動と社会運動は抵抗の希望になれるのでしょうか？

## 10/5(月) それでも、民衆は再び立ち上がった——米国の弾圧を許さない市民の連合



武藤一羊

ピープルズ・プラン研究所運営委員



高木恒一

立教大学社会学部教授/  
PARC理事

松井隆志

武蔵大学社会学部教授



## 8/17(月) USAID解体から考える援助の未来——米政策に振り回されてきた援助の現場

稲場雅紀  
アフリカ日本協議会代表理事・  
国際保健部門ディレクター/  
PARC理事

大橋正明

PARC共同代表/  
SDGs市民社会  
ネットワーク共同代表理事

トランプ政権は樹立から間もなく米国の国際援助機関であるUSAIDを標的にして、大幅な予算と実行人員の削減に踏み切りました。これまでも、米政権が変わると援助予算や、援助のつく種類の活動が変わって振り回されることはしばしばありました。しかしトランプ政権のUSAID解体はその延長線にあるものなのでしょうか？ それとも別次元の政策転換というべきでしょうか？ 一国あるいは一部の超富裕層の気まぐれに援助と人道支援が依存する実態からの抜け道を探ります。

1960年5月20日、米国への従属に反対する日本の民衆は立ち上がりましたが、一ヶ月後には安保条約は承認され、発効してしまいました。多くの人が打ちひしがれ、アジアにおける米国の支配力はピークを迎えました。それでもわずか数年後に民衆は立ち上がり、「ベトナムに平和を！市民連合」を形成し、米国によるアジアの弾圧に抵抗しました。そしてアジアとの国際連帯を育む活動も生まれていきました。今よりもさらに民衆が抑圧されていた時代の力強くもしなやかな運動の経験に学びます。



## PARC とは？

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター (PARC: Pacific Asia Resource Center) は、「南」と「北」の人びとが対等・平等に生きることのできる社会をめざして様々な活動に取り組んでいます。

南の人びとの状況や国際的な課題についての情報収集や調査研究活動、問題の解決に向けた政策提言活動やキャンペーン、PARC 自由学校や開発教育教材としてのオーディオ・ビジュアル作品、インターネットを通じた情報発信を行っています。

南と北の人びとが対等・平等に、ともに生きていける関係をつくることと、日本社会が変わることは、別々のことではありません。PARC は人びとが国境を越えて出会い、ネットワークを広げ、エンパワーしあっていく、その媒介役となることをめざしています。

## PARC 自由学校とは？

PARC 自由学校は、世界と社会を知り、新たな価値観や活動を生み出すオルタナティブな学びの場です。1982年の開講以来、アジア、アフリカ、中南米など世界の人びとの暮らしや社会運動を知る講座、世界経済の実態や開発を考える講座、環境や暮らしのあり方を考える講座など、毎年約15講座を開講しています。

私たちが生きている世界のこと、そしてその世界とつながっている日本社会のことを知りたい。より豊かな暮らし方や生き方のヒントが欲しい。自分らしさを表現するための技術を身につけたい。そんな人たちが出会い、学びあうのが自由学校です。

新しい視点や新しい知識に出会うと、発想が変わります。すると、これまで思っていたのとは違う世界や社会が見えてくるかもしれません。そして、今のようではない社会はどんな社会なのか、どうしたら実現できるのかを考えたり、もしかしたら動き出したくなるかもしれません。自由学校はそのきっかけとなる場でありたいと考えています。

### PARC 自由学校メイン会場

## 東京 DEW

[tokyodew.roukyou.gr.jp](http://tokyodew.roukyou.gr.jp)

「東京 DEW (Democratic Education and Work)」は民主的な「学び」と「しごと」を融合する拠点として、PARC 自由学校以外にも様々な学びや働き方にかかわるセミナーやイベントを開催しています。

ココロ・カラダ・地球にやさしい日替わりカフェや NPO・協同組合での働き方相談など自由学校以外でもぜひ東京 DEW に足をお運びください。



# 人権を保障するのは誰か？

## ——国家・国際社会の枠組みの限界と希望

1948年の第3回国連総会で採択された世界人権宣言は人権の普遍性を説いています。しかし現実には、誰が国民か、その国民の人権は何か、ということ独断的に定めているのは国家です。その枠外にいる難民や無国籍者、先住民などの人権保障は、人権に関する条約や国際組織の存在にも拘らず、積極的に保障されることは多くありません。そしてそれは日本政府も例外ではありません。

本講座では国際秩序が大国によって揺さぶられる中、改めて、個人の基本的な人権を国際的に保護することを目的として発展してきた国際人権法についての歴史と基礎を学び、その可能性を考えます。その上で、「国家」という枠組みの中で、人権を保障されているとは言えない状況に置かれている人びとの実情をみつめます。果たして、当事者は何を求めているのでしょうか。最終回では、講座コーディネーターとともに、受講者の視点や疑問点を共有し、ディスカッションすることで、次の一歩につなげます。

2026年7月～10月

原則として水曜日 19:00～21:00

- 全8回 ●開催形式:対面(東京DEW)またはオンライン(zoom)の選択制
- 受講料:28,000円(U25割:5,000円)

※出かける回は現地への交通費・実費などが別途かかります。

### 講師&コーディネーター



大橋正明

PARC共同代表/SDGs市民社会ネットワーク共同代表理事

1953年、東京都生まれ。早稲田大学、コーネル大学大学院卒業。シャブール代表理事、国際協力NGOセンター(JANIC)理事長、恵泉女学園大学教授、聖心女子大学グローバル共生研究所所長などを歴任した。



石井宏明

NPO法人Mobility for Humanity共同代表

慶應義塾大学卒業後、一般企業勤務を経て、米国の国際関係の大学院に留学して修士号(MA)取得。帰国後、アムネスティ・インターナショナル日本を皮切りに、NGO・NPO業界へ。1999年難民支援協会の創立に尽力。2025年にはNPO法人Mobility for Humanityの設立に参画した。現在、一橋大学国際・公共政策大学院(市民社会論)等での非常勤講師の他、東北被災地を含む複数のNPO法人の理事・監事を務める。



金子由佳

立教大学兼任講師/国際NGO職員

大学卒業後、長年、難民支援NGOやODA実施機関で勤務。2011年にロータリー世界平和フェローとして豪州の大学で国際政治学修士課程修了。国連大学勤務を経て、2012年からNGO職員としてエルサレム事務所・ガザ事業担当として現地赴任。2019年日本赤十字社レバノン派遣要員。これまで100回近くガザを訪問。2019年から立教大学兼任講師「パレスチナ問題の歴史と現在」担当。2024年から同大学、平和・コミュニティ研究機構、特別任用研究員。

### 7/8(水) 冬の時代にある国際「人権」法の可能性



小坂田裕子 中央大学法科大学院教授

大国が国際法を都合のよいように解釈したり、不要だと主張し始めたりするなど、国際法は厳しい状況に置かれています。それは国際人権法も同様です。本講義では、国際人権法の基礎や、日本で国際人権法がより実効的に機能するために何が必要なのかを学びます。

### 7/22(水) 日本の難民「問題」——その始まりと現在

石井宏明 NPO法人Mobility for Humanity

日本は1980年以降に難民受け入れや難民条約加盟を行いました。なぜ、その時期だったのか。なぜ、今でも条約難民の認定率が低いのか。そして、補完的保護対象者とは何か。現状と問題点、今後の展望を、支援者や当事者の声からみつめます。

### 8/5(水) 無国籍者とされたロヒンギャの問題 ——その現状と今後

大橋正明 PARC共同代表/SDGs市民社会ネットワーク共同代表理事

ロヒンギャの人びとはバングラデシュを筆頭に、マレーシアやタイ、インドやネパール、サウジアラビア、北米や英国など世界中に広がっています。この人たちはなぜミャンマーを追い出され、どのように暮らしているのでしょうか。その現状を解説するとともに、近年の難民の第三国定住の減少や援助の減少といった現状の中、当事者がどのような戦略を持っているのかに注目します。

### 【フィールドワーク:館林市】

### 8/23(日) 「ロヒンギャの日」を訪ね、生の声を聴く

2017年8月25日からのミャンマー国軍などによる襲撃によって、数万人の尊い命が奪われ、115万人ほどがバングラデシュに避難したロヒンギャの人びと。毎年その日の前後に、在日ビルマ・ロヒンギャ協会と館林市国際交流協会などが企画する館林市のイベント「ロヒンギャの日」に参加し、当事者と交流します。

※「ロヒンギャの日」の開催状況によって、日程等が変更になる場合があります。

### 9/2(水) パレスチナにおける国家承認と 基本的人権である自決権の不一致

金子由佳 立教大学兼任講師/国際NGO職員

パレスチナの人びとが求める自由、尊厳、自決する機会。果たして国家は人びとの尊厳を守るものとしてどれぐらい信頼できるのでしょうか？ 人道の概念を破壊したガザ戦争から見えてくる、国家・国際社会の枠組みの限界と希望を考えます。

### 9/16(水) 先住民族運動からみる近代国家の虚構



上村英明

市民外交センター元代表/恵泉女学園大学名誉教授/前衆議院議員

近代植民地主義は、先住民族に対する侵略と抑圧に始まります。そして、グリーンランドにみるように現在進行形です。日本の植民地主義も、アイヌ民族・琉球民族に始まりますが、その事実すら認識されていません。国家の基本が問われなければなりません。

### 9/30(水) 国家は絶対に不変なのか ——インドネシアの両端が突きつける問い



佐伯奈津子

名古屋NGOセンター政策提言委員/NGO・外務省 定期協議会ODA政策協議会NGO側コーディネーター/名古屋学院大学

津留歴子

カカオキタ社顧問/(特活)APLA理事/ 新時代ピースアカデミー共同代表

多数の港市国家から、オランダ植民地支配、日本軍政、連邦共和国を経て、「インドネシア共和国単一国家(NKRI)」まで、インドネシアという国家は変化しつづけてきました。インドネシアの最西端のアチェ、最東端のパプアで、国家に対して挑戦しつづけている人びとの姿から、わたしたちが学べることを考えます。

### 10/14(水) ディスカッション:次の一歩を考える

国際援助予算の削減、排外主義の蔓延、周辺国との軍事緊張…。一見するとコスモポリタニズムの暗黒時代に入ってしまったかのような現状の方向転換のカギはどこにあるのでしょうか？ 3人のコーディネーターとともに考えます。

# パレスチナをどう学ぶ？教える？

## ——"Teaching Palestine: Lessons, Stories, Voices"を読む

「パレスチナのことを話したいけど…」

何から話したらよいかわからなかったり、複雑で難しそうと懸念したり。そんな経験を持つ人は少なくないのではないでしょうか。けれど、パレスチナの現状は地球社会が直面する、非常に重要な平和課題です。

2025年、米国の教育関係者らが出版した『Teaching Palestine』は、学校教育や市民の学びの場を想定し、子どもから大人までパレスチナを学ぶための一助となるエッセイ、インフォグラフィックスやワークショップ案をまとめた一冊です。

今回、PARCでは、NPO 法人開発教育協会(DEAR)と共催で、このテキストを活用して日本の教育現場に同様の内容のパレスチナ学習補助教材をお届けすることを目的とした参加型ゼミナールを開催します。講座では、事前に課題箇所を読んだ上で集まり、意見交換をしたり、実践に向けた活用方法を議論します。またワークショップの実践体験も盛り込んでいく予定です。

いち早く原文とその仮訳に触れ、一緒に日本での最適な活用方法を考えるための実践コースです。ぜひご参加ください。

※原文を一読いただくことが推奨されますが、講座の際には、版元に翻訳の許可を得て仮訳を提供しますので英語の読解力は必ずしも必要ありません。仮訳は受講申し込みを完了された受講生にお配りします

### 2026年6月～8月

#### 原則として月曜日 19:00～21:00

●全6回 ●定員:20名

●開催形式:対面(東京DEW)またはオンライン(zoom)の選択制

※受講方法を適宜切り替えていただくことも可能です。

●受講料:35,000円(U25割:5,000円(先着2名))(教材費込)

【共催】NPO 法人開発教育協会(DEAR)

※DEAR会員の方には割引制度があります。クーポン番号をお知らせするので、

講座申し込み前にDEAR事務局(main@dear.or.jp)までお問合せください。

※合宿は現地への交通費・宿泊費・食費・実費などが別途かかります。

#### 日程

第1回:6/8(月)

第2回:6/15(月)

第3回:6/29(月)

第4回:7/13(月)

第5回:7/27(月)

第6回:8/1(土)～2(日) 【東京近郊で1泊2日合宿】

#### 共催

NPO 法人開発教育協会(DEAR)  
dear.or.jp



開発教育は、私たちひとりひとりが、開発をめぐるさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共に生きることのできる公正で持続可能な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動です。

開発教育協会は国際協力NGOや国連関係団体、地域の市民団体など約50の民間団体と教員など約700名の個人で構成される教育NGOです。1982年に発足して以来、教材の発行(約30点)や、講師派遣(年間150回)、参加型学習の普及推進を行っています。教材『ワークショップ版世界がもし100人の村だったら』で国際人権教材アワード受賞(2004年)した他、『スマホから考える世界・わたし・SDGs』など、PARCと協力した教材開発も行ってきました。



【テキスト】 "Teaching Palestine", Rethinking Schools, 2025

目次

Chapter1 なぜパレスチナを教えるのか

Chapter2 パレスチナとイスラエルの歴史

Chapter3 ガザ

Chapter4 イスラエルのアパルトヘイトと植民地占領

Chapter5 シオニズムと反ユダヤ主義

Chapter6 パレスチナとの連帯

付属資料

#### 講師&コーディネーター



近藤牧子

開発教育協会(DEAR)理事・事務局長補佐 / PARC 監事

学生のころからDEARの活動に参加し、現在、事業運営、調査研究、教育教材・プログラム作成、政策提言に従事。博士(文学)、専門は教育学。著書教材に『豊かさ開発』『おとな・ユースのアクティブシティズンシップ教育ハンドブック』(ともにDEAR、改訂版2026、2025)、編著書に『地域学習支援論』(大学教育出版 2025)『生涯学習のグローバルな展開』(東洋館出版 2020)などがある。



田中 滋 PARC 事務局長・理事

米国コーネル大学大学院在学時からACORN(Association of Community Organizations for Reform Now)をはじめとする米国における低所得者層を支援する社会運動に関わる。帰国後は環境NGO A SEED JAPAN事務局を経て現職。社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク(RIPESS)やアジア太平洋調査ネットワーク(APRN)など国際的なNGOネットワークの理事も担う。



# 「共に生きる」ための社会調査 ——川崎の地域実践から学ぶ

PARC 自由学校では2025年度に「市民による社会調査力アップ入門講座」を開催し、プロや専門家でなくとも取り組むことのできる調査の手法を紹介し、好評を得ました。市民の目線とアイデアで調査を行い、社会を捉え直すことは、新たな発見や展望を見出す力になります。

これを受けて2026年度は、ひとつの地域を対象として社会調査を実施する講座を企画しました。川崎市をフィールドとして、多文化共生政策や地域住民の取り組みを調査し、その動向を検証します。社会調査の過程を学びつつ、受講生が調査に基づく成果を共有することで、川崎の地域実践から「共に生きる」社会をどのようにつくり出すことができるのか、そのヒントを探りましょう。

2026年6月～9月

原則として金曜日19:00～21:00

- 全8回 ●定員:12名
- 開催形式:対面(東京 DEW)またはオンライン(zoom)の選択制
- 受講料:35,000円 ※現地調査では交通費・実費などが別途かかります。



講師&コーディネーター 高木恒一

立教大学社会学部教授 / PARC 理事

専門は都市社会学。都市政策や都市の市民・住民運動について研究する一方、共生社会研究センターの運営にも携わる。著書に『都市住宅政策と社会一空間構造:東京圏を事例として』立教大学出版会 2012。



## 6/19(金) [イントロダクション]

### 市民による社会調査のすすめ

市民が自らの力で調査を実施したことで社会の諸課題を告発し、解決につながった例はいくつもあります。初回では、そうした事例を紹介しながら、受講生を社会調査へ誘います。合わせて地域調査の特質を確認します。

【参考文献】宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』岩波新書 2020

## 7/3(金) 地域調査の実際:先行研究とデータの収集

調査を行う際には、1)先行研究の検討、2)資料とデータの収集、3)現地調査というステップを踏むことが重要です。この回では調査のステップを紹介するとともに、先行研究や資料やデータの収集の手法を学びます。WEBサイトに公開されている情報などを活用し、実際に資料やデータの収集を体験してみましょう。

## 7/17(金) 先行研究の文献・データの整理と検討、課題の設定

先行研究に触れて、収集した資料やデータを読み込んだら、現地調査のための「問い」を設定します。前回の授業をうけて、資料やデータを分析して、一人ひとりの「問い」を設定しましょう。



2025年度の「社会調査力アップ入門講座」の様子

## 7/31(金) 現地調査をどう行うか



ゲスト講師 橋本みゆき

立教大学ほか兼任講師 / 川崎在日コリアン生活・文化・歴史研究会会員 / 多文化共生をめざす川崎歴史ミュージアム設立委員会役員

在日コリアンの方々の聞き取りを積み重ね、住民としても川崎の実践に参加してこられた橋本さんから、ヒアリングの手法や注意点など、現地調査の一般的な方法をご紹介します。

## 8/7(金) 現地調査の準備(1)

ゲスト講師 橋本みゆき

橋本さんから、川崎市の多文化共生社会の成り立ちと現状についてうかがいます。お話をうけて、それぞれの設定した「問い」をどう探るか、調査の準備を進めましょう。

## 8/21(金) 現地調査の準備(2)



ゲスト講師 山田貴夫

川崎在日コリアン生活・文化・歴史研究会代表 / ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネットワーク代表

ゲスト講師 橋本みゆき

川崎市職員として、外国人市民の市政参加を推進することを目的とした「外国人市民代表者会議」の立ち上げなどの共生施策に取り組んでこられた山田さんをゲストにお迎えします。「共に生きる」ための社会づくりに取り組んできた当事者のお話を聞くとともに、これまでの準備を踏まえて意見交換を行い、「問い」を深めます。

## 8/29(土) 現地調査

ここまでの回の学びで現地調査の準備が整います。この回は実際に川崎を訪れて、街を歩いたり当事者のお話をうかがいます。

## 9/18(金) 受講生による報告会

最終回では、各自の調査結果を発表します。それぞれに異なる着眼点からたてられた「問い」を持ち寄ったとき、どんな発見が生まれるのでしょうか？

## 農と食の民主主義を実現する

「令和の米騒動」が私たちの食卓を揺るがしました。米価格の高騰は、なぜ起こったのでしょうか。生産者が政策に翻弄され、流通のブラックボックス化が進み、消費者が米を軽視してきた結果の現れです。これは、分断されてきた日本の農と食の縮図といえます。

日本の農業政策は相も変わらず大規模化・輸出推進を掲げ、トランプ政権下の米国は日本への輸出拡大を迫り、地球沸騰化による気候変動が深刻化、格差の拡大は食にアクセスできない層を増加させています。一

方で、生態系を保全する持続可能な農業を広げ、生産者と消費者が手を取り合い、誰もが耕することができる「下からの自給」を目指す取り組みも広がりを見せています。

この講座では、PARCが制作した新作DVD『農と食の民主主義』（仮）では扱えなかったテーマを取り上げます。

「誰が悪いのか？」ではなく、「みんなの問題」として農と食を捉え、「農と食の民主主義」の実現に向けて何ができるか考えましょう。

2026年7月～9月

原則として木曜日19:00～21:00

- 全8回
- 開催形式：オンライン（zoom）
- 受講料：25,000円（U25割：5,000円）



コーディネーター 小口広太

千葉商科大学人間社会学部准教授 / PARC 理事

1983年、長野県塩尻市生まれ。専門は地域社会学、食と農の社会学。有機農業や都市農業の動向に着目し、フィールドワークに取り組んでいる。

## 7/2(木) 新作映像作品の視聴と解説 / ガイダンス



山口勝則 映像作家



小口広太

千葉商科大学人間社会学部准教授 / PARC 理事

新作DVD『農と食の民主主義』（仮）を視聴し、全ての現場を撮影した監督の山口さんにお話をうかがいます。また、ご自身が参加され、作中でも取材したSOSA PROJECTについても紹介させていただきます。

## 7/10(金) 農と食の見取り図を共に考える



藤本穰彦

明治大学政治経済学部専任教授 / PARC 理事

日本における農と食の現状と課題を「倫理」「身体」「理念」「ケア」の視点から検討し、つながり方/つなげ方を見取り図を示します。第3回以降の各論に入る前の導入という位置付けで、総論的にさせていただきます。

## 7/30(木) トランプのMAGAが揺さぶる日本の農と食



山田優 農業ジャーナリスト

第2次トランプ政権は、MAGAを掲げ同盟国に対しても相次いで無理難題を押しつけています。米国の農業食料戦略を紐解きながら、現在の貿易政策と農業政策、日本の農と食に与える影響について解説いただきます。

## 8/6(木)

## 農と食における気候変動対策と土壌生態系の役割



金子信博

島根大学客員教授 / 横浜国立大学名誉教授 / 福島大学名誉教授

気候変動は私たちの農と食のあり方を問い直しています。農業由来の温室効果ガスを削減するだけでなく、化石燃料への依存を減らし生物多様性を尊重する農業への転換を考えます。

## 8/20(木) 再生型農業と農業の民主化



仲野晶子 SHO Farm代表

農家女性の活躍が広がる一方で、いまだジェンダーの問題が生産現場に根強くあります。不耕起栽培に転換して、性別や役割を問わず誰もが関わることのできる農業の民主化とは何なのか。生産者、女性の視点でお話いただきます。

## 9/10(木) 農福連携からユニバーサル農園へ



吉田行郷 千葉大学園芸学部教授

農福連携の動向と現状について振り返り、障害者を含めた多様・多世代の人たちが交流できるユニバーサル農園への展開とその仕組み、意義について国内外の事例を踏まえて解説いただきます。

## 9/17(木)

## 生産者と消費者がつくるPGS(参加型保証システム)



谷口葉子 摂南大学農学部准教授

生産者と消費者の顔と顔が見える関係性をどのようにつくり、お互い支え合っていくことができるのか。近年、注目されているPGS (Participatory Guarantee System) について、世界と日本の動向とその役割についてお話いただきます。

## 9/24(木) Healthy Food For All

## —ヒトと地球にヘルシーな食を分かち合う実践から持続可能な農と食の未来を展望する



山本奈美

明治国際医療大学助教(農学部食農エコロジー学科設置準備室)

「食」が注目を集めています。ヒトを含めたすべての生きものに、そして環境、農業、社会、地球にも「健康(健全性)」をもたらす潜在力が期待されるからです。だからこそ、そうした食を「選べる人の特権」にしない——世界で広がりつつある「ヒトと地球にヘルシーな食を分かち合う実践」を手がかりに、持続可能な農と食の未来を考えます。

## PARC 新作DVD 2026年4月発売予定!

## 『農と食の民主主義:米価ショックから見える未来(仮)』

- 監督:山口勝則(映画監督)
- 企画・監修:大野和興/松平尚也/小口広太/内田聖子
- DVD またはオンラインストリーミング視聴/カラー42分(予定)

※詳細は決まり次第Webサイトに掲載します。

## アイヌ語を学びつつ、 日本語の問題としてとらえかえす

アイヌ語を実践を通じて学びつつ、アイヌ語の物語を読むことを通じてアイヌ語の物語世界を理解することを目指します。道東の十勝・白糠・釧路を中心としたアイヌ語と物語を扱います。

また、アイヌ語はユネスコによって深刻な「危機言語」として指定されていますが、実は日本語にも深刻な「危機言語」が幾つもあります。「方言」と呼ばれてきたそれぞれの地域の日本語は、継承されずに話者の高齢化が進んでいます。アイヌ語の問題を、日本語の話者が自らの言語の問題としても捉えられることを目指し、今年度の講座では、ゲスト講師による講演と、希望制でのフィールド訪問とを組み合わせます。「全ての言語が対等に生きられる世界」を想像できるようになることを目指します。

※もし講座開始前に時間の余裕があれば、近年新たにちくま文庫から再刊された茅辺かろう『アイヌを生きる』を読んでみてください。講座の途中で扱います。



2026年10月～2027年2月  
金曜日 19:00～21:00

- 全10回 ●定員:25名
- 開催形式:対面(東京DEW)またはオンライン(zoom)の選択制
- ※受講方法を適宜切り替えていただくことも可能です。
- 受講料:39,000円(U25割:5,000円)

### 10/9(金) どこから来たのかを尋ねる／ 地域ごとのアイヌ語の違い

アイヌ語には豊かな地域的な多様性があり、その区分や記録の量の違いについて入門的な解説をしながら、アイヌ語の初歩を解説し、会話の練習をします。

### 10/23(金) 自己紹介をする／十勝の神話(その1)／ 十勝の伝承者たち

アイヌ語の地域的な違いを意識しながら自己紹介をする練習をするとともに、十勝地方で記録された神話(オйна)を音声聞きつつ物語を読み進め、考察します。十勝地方の主要な伝承者たちについても紹介します。

### 10/30(金) アイヌ語の数の仕組み／ 十勝の神話(その2)

アイヌ語の数が数えられるようになるとともに、二桁以上の数字がもつユニークな数え方の仕組みを紹介します。十勝本別地方の重要な伝承者であった沢井トメさんについて、映像や文章を通じて知ります。

### 11/13(金) 消えそうな声を残し、届ける ——静岡県北部・井川方言の記録と継承をめぐる活動



ゲスト講師 谷口ジョイ 静岡理工科大学情報学部教授

日本において危機的状況にあるのは、アイヌ語だけではなく、それぞれの地域の(共通語以外の)言語・方言も同様の状況に置かれています。今回の講座では静岡県北部の井川方言の記録と継承活動に取り組む谷口ジョイさんに話を伺いつつ、アイヌ語と日本語を同じ地平で捉えられるようになることを目指します。

### 11/27(金) アイヌ語の基本動作と動詞の命令形／ 十勝の神話(3)

アイヌ語の基本動作を示す動詞について、地域ごとの違いを意識しながら練習します。また、ここまで読んできた神話について、実際に演唱してみながら、物語について考察します。



講師&コーディネーター 藤田 護

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部

ラテンアメリカのアンデス高地の先住民をめぐる研究をしていて、そこで先住民の言葉であるケチュア語やアイмара語を学ぶ過程で、日本でもアイヌ語を学び、アイヌ語を現代の日常に回復しようとする動きに関わるようになりました。PARCでも以前にアイмара語の講座を担当したことがあり、その後ケチュア語の神話を読むサークル活動として現在まで続いています。

### 12/11(金) 質問のしかたと答え方／ 白糠の英雄叙事詩(1)

アイヌ語での質問のしかたは、独特の特徴をもっています。これを練習するとともに、白糠で伝承される英雄叙事詩について、主要な場面を抜粋しながら読み進めます。また、釧路や白糠地方の主な伝承者について紹介します。

### 2027/1/8(金) 山本多助(釧路のエカシ)による アイヌ語の記録



ゲスト講師 中川裕 千葉大学名誉教授

山本多助氏は知里真志保の批判などによって、これまでアイヌ語研究史上あまり重視されてきませんでした。しかし彼が主幹となっていた『アイヌ・モンリ』の復刻によって評価は大きく変わりました。「釧路アイヌ語の会」の成果を参照しながら、山本氏の活動を再検討します。

### 1/22(金) 天気について話す／白糠の英雄叙事詩(2)

アイヌ語における天気や季節の表現の仕方について学ぶとともに、白糠の重要な伝承者であった四宅ヤエさんの伝承がもつ特徴について考察します。

### 1/29(金) 樺太のアイヌ語の英雄叙事詩「ハウキ」



ゲスト講師 北原モコットウナシ

北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授、北海道大学アイヌ共生推進本部兼務教員

樺太のアイヌ語の基本的な特徴を解説してもらい、練習するとともに、「ハウキ」と呼ばれる樺太の英雄叙事詩がもつ特徴を探ります。

### 2/12(金) 否定や禁止の形／白糠の英雄叙事詩(3)

アイヌ語では否定や禁止の形にも地域差があり、それを比較しながら練習します。四宅ヤエさんをはじめとする、道東の「サコロベ」と呼ばれる英雄叙事詩がもつ特徴を探ります。

## ラテンアメリカ先住民の言語と文化を学ぶ ——メキシコ最大の先住民言語ナワトル語を知る

21世紀に入り、ラテンアメリカにおいては、それぞれの地域の先住民言語の社会的存在感が高まってきました。また、日本の若い研究者の世代には、スペイン語に加えて先住民の言葉を学び、専門とする人が出てきており、日本語を通じてラテンアメリカ先住民言語を学ぶまたない可能性が生まれています。

このような状況を活かし、今年度は、かつてアステカ(メシカ)の言語であり、現在のメキシコにおいても多くの話者を擁するナワトル語とナワトル語を取り巻く社会と文化の世界について、体験的に学びます。このような機会を通じて、ラテンアメリカ社会の多層性と、特に先住民の世界を、より直接的に経験することを目指します。



2026年6月～8月  
金曜日19:00～21:00

- 全5回 ●定員:25名
- 開催形式:対面(東京DEW)またはオンライン(zoom)の選択制
- ※受講方法を適宜切り替えていただくことも可能です。
- 受講料:18,000円(U25割:5,000円)



講師&コーディネーター 藤田 護  
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部



### 6/12(金) 現代にラテンアメリカ先住民言語を学ぶ意義

いまあらためてラテンアメリカ先住民言語を学ぶ意義を考えるとともに、南アメリカのアンデス高地から先住民言語の言語再活性化について考えます

### ナワトル語と文化・社会



ゲスト講師 佐々木充文 東京科学大学非常勤講師

### 6/26(金) ナワトル語の歴史と特徴を知ろう

かつて栄華を誇ったアステカ帝国を国家統合の象徴としてきた近現代のメキシコにとって、その言語であったナワトル語は、数ある先住民語の中で特別な役割を果たしてきました。その歴史を概観するとともに、つづり字と発音を覚え、その言語としての特異な性質を体験してみましょう。

### 7/10(金) 現代メキシコに生きるナワトル語

現代メキシコの共通語であるスペイン語にもナワトル語の影響は色濃く、ひとたびメキシコを旅行すれば、ナワトル語由来の地名・料理名・動植物名などを目にしない日はありません。そうした単語の組み合わせ方の原理を知れば、旅先で目にする単語の構成がわかります。旅が一層楽しくなることでしょう。

### 7/24(金) 古典語としてのナワトル語と絵文書の世界

ナワトル語は、大航海時代のメキシコ先住民社会の共通語であり、膨大な資料が書き残されました。メキシコ史の学生は、今でも古い記録を読むためにナワトル語を学ぶほどです。最低限のナワトル語知識をお供に、実際の古文書の文章に触れてみましょう。

### 8/28(金) ナワトル語を実際に聞いて話してみよう



ゲスト講師

Victoriano de la Cruz Cruz

(ビクトリアノ・デ・ラ・クルス・クルス)

ベラクルス州先住民語アカデミー(AVELI) 所長、復興運動団体「ヨリーティア・アメリカ先住民語センター」所長

ナワトル語の母語話者で、外国での豊富な指導経験をもつプロのナワトル語講師、デ・ラ・クルス氏が来日されるにあたり、ご講演いただけます。ナワトル語のあいさつ・基本会話の練習のほか、先住民語復興の最新の情勢についてもお話いただけます。



## 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

インターネットや雑誌、新聞の英文記事を読み、その背景も学びながら日本語で議論する講座です。開発、経済、貿易、食の問題など、日本や世界の情勢についてのトピックから、参加者とともにテーマを選んでいきます。英語の文章を読み解く力、日本語らしく訳す力、そして溢れる情報を判断する力を身につけると同時に、様々なものの見方や考え方に会うことができます。

2026年6月～2027年1月

原則として隔週火曜日 10:00～12:00

- 全15回 ●定員:20名
- 開催形式:対面(PARC自由学校教室)またはオンライン(zoom)の選択制
- 受講料:46,000円(U30割:5,000円(先着2名))

## こんな人におすすめ!

- 日本ではあまり伝えられないニュースの裏側を知りたい方
- NGOや独立系メディア、批評家の視点や分析を知りたい方

日程

第1回:6/23  
第2回:7/7  
第3回:7/21第4回:8/4  
第5回:9/1  
第6回:9/15第7回:9/29  
第8回:10/13  
第9回:10/27第10回:11/10  
第11回:11/24  
第12回:12/8第13回:12/22  
第14回:2027/1/12  
第15回:1/26

講師 浦田 誠 労働ジャーナリスト

国内外の労働組合組織に40年近く勤めた後、現職。国際運輸労連(ITF)本部勤務でロンドンに21年間在住。ITF内陸運輸部長として、世界80カ国を歴訪。ILOなどでITFを代表。アムネスティ英国支部「結成30周年と30人の労働組合人権活動家」に選ばれる(2009年)。国際労働運動やライドシェア問題で寄稿多数。交通の安全と労働を考える市民会議会員。Make Amazon Pay日本実行委員会メンバー。ワーカーインフォエクスチェンジ(WIE)理事。



講師 田中 滋 PARC事務局長・理事

米国コーネル大学大学院在学時からACORN(Association of Community Organizations for Reform Now)をはじめとする米国における低所得者層を支援する社会運動に関わる。帰国後は環境NGO A SEED JAPAN事務局を経て現職。社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク(RIPESS)やアジア太平洋調査ネットワーク(APRN)など国際的なNGOネットワークの理事も担う。

※講師が分担してそれぞれの回を担当します。

※国際的に活動するNGOワーカーをゲストにお迎えすることもあります。



## ルイスの“Let's talk about the world!”

自分の意見や思いを英語で発信する力を一緒にみがきませんか？このクラスでは、平和教育や人権問題に取り組んできたルイスさんを講師に、英語での表現を楽しく、そして丁寧に学んでいきます。ニュース記事や映像など、様々な英語コンテンツで事前に語彙や表現を学んだ上で、英語で意見交換をしていきます。コミュニケーション力を高め、自分の意見をはっきりと伝える力もつけていきましょう。毎回様々なテーマを扱いますが、受講生からのトピックスの提案も大歓迎。皆さんのご参加、お待ちしております！

2026年10月～2027年2月

木曜日 19:00～21:00

- 全10回 ●定員:15名 ●開催形式:オンライン(zoom)
- 受講料:38,000円(U25割:5,000円(先着2名))

日程

第1回:10/1 第4回:11/19 第7回: 第9回:2/4  
第2回:10/22 第5回:11/26 2027/1/14 第10回:2/18  
第3回:11/5 第6回:12/10 第8回:1/28講師 Louise Nygaard Sørensen  
(ルイス・ソレンセン)  
NGOピースポート国際コーディネーター

デンマーク出身。コペンハーゲン大学で社会文化人類学の修士号、スウェーデンのマルメ大学で平和・紛争研究の学位を取得。アムネスティ・インターナショナルなど複数のNGOでの経験を経て、現在はNPOスタッフとして平和教育プログラムの開発等に関わりながら持続可能性と平和教育に情熱を注ぐ。熱心な読書家であり、旅行や、ハイキング、スキー、キャンプなどアウトドアも愛する行動派。

## こんな人におすすめ!

- 平和や人権などの社会問題について英語でディスカッションできるようになりたい方
- 自分の意見を英語で発信するコミュニケーション力をつけたい方

※このクラスは、基本的な英語の読み書きと会話ができる方を対象にしています。授業はディスカッションを中心とし、すべて英語で行われます。

## 鎌田慧 時代を描く・ルポルタージュの現場から

わたしたちは何を切り捨て、何を置き忘れて生きてきたのでしょうか。現代社会の矛盾と痛苦を、高みからではなく同じ時代に生きる人間として見つめ、描き続けてきたルポライター・鎌田慧さんのシリーズ。好評につき第4弾の企画です。ルポルタージュが持つ繊細かつ豊かな世界を、座学を通じてたどります。

今回は、時代の記録、文学の可能性・先見性について深く掘り下げていきます。作品理解のための案内人・聴き手を務めるのは、ジャーナリストの永田浩三さん。毎回、鎌田さんの著作を声に出して共有しながら、闇に消された声なき声を浮かび上がらせます。

2026年6月～7月

木曜日14:30～16:30

- 全4回 ●定員:30名 ●開催形式:対面(清瀬市内会場<予定>)
- 受講料:21,000円

## 6/11(木) 去るも地獄、残るも地獄 炭鉱の深い闇

炭鉱の世界ほど、泣き笑いの人生が凝縮した世界はないと、鎌田さんは言う。落盤・爆発・首切り、反対闘争への弾圧。かつてのエネルギーの担い手たちが、時代の間の中で見たものはなにか。泥沼のなかで、炭鉱に生きた人たちの生き方を見つめる。

【参考文献】『去るも地獄 残るも地獄——三池炭鉱労働者の二十年』筑摩書房1986/『全記録 炭鉱』創森社2007など

## 6/25(木) 冤罪の深い闇

たとえ真犯人が出現しても、無罪であることが確定しても、冤罪被害者たちは世間の白い眼から逃れることはできない。そこには警察とそれに追随する大手メディアのもたれあいと退廃がある。鎌田さんのライフワークである「冤罪人権」の本質とは。

【参考文献】『弘前大学教授夫人殺人事件』講談社文庫1990/『狭山事件——石川一雄、四十一年目の真実』草思社2004



講師

鎌田 慧 ルポライター

1938年青森県生まれ。新聞記者、雑誌編集者を経て、1968年よりフリーのルポライター。著書は150冊を超える。主著に『自動車絶望工場』『六ヶ所村の記録—核燃料サイクル基地の素顔』(毎日出版文化賞受賞)『狭山事件の真実』など。2024年9月より『鎌田慧セレクション』全12巻が、皓星社から順次、隔月刊行されている。



コーディネーター

永田浩三 ジャーナリスト/武蔵大学名誉教授

1954年大阪府生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。著書に『ヒロシマを伝える 詩人・四國五郎と原爆の表現者たち』『奄美の奇蹟』など。ドキュメンタリー映画『闇に消されてなるものか』『命かじり』など。2024年には『原爆と俳句』が大月書店より刊行された。

## 7/9(木) さようなら原発運動

チェルノブイリや福島のごとく以前、1971年から鎌田さんは原発はあってはならないと考えるに至った。半世紀以上原発はNOだと叫ぶにあたって、内橋克人、高木仁三郎、大江健三郎、鶴見俊輔といった人々とのように出会い何を学んだのか。

【参考文献】『さようなら原発運動 鎌田慧セレクション4』皓星社2025ほか

## 7/23(木) 本とひとが教えてくれた

ロシア文学を学んだ鎌田さんの最初のお手本は、『母』などの社会的な小説を著したゴーリキーだった。同郷・津軽の作家としては、太宰治、葛西善蔵がいた。さらに日本社会の闇を考える上で裂けて通れないのが、大逆という無実の罪で死刑となった幸徳秋水であり、治安維持法の犠牲になった。

## 畑で実践!! &lt;たね&gt;からはじまる無肥料自然栽培

池袋から電車で25分、交通の便の良い埼玉県柳瀬川近くにある広々とした畑で、固定種・在来種の<たねとり(自家採種)>を基本とし、農薬、化学肥料や有機肥料に頼らず、自然や土の力を生かした無肥料自然栽培の基本を実習で学んでいく実践講座です。農作業が初めての方でも、実際に作業を行いながら講座を進めていきますので無理なく続けられます。

この道23年のベテラン講師の講習は家庭菜園を長く続けている方にも好評! 四季を通じて畑に通い、野菜を育てながら、種まき、育苗、植付、間引き、収穫、母本選抜、種とり(脱粒)、芽かき、摘心、剪定、移植など一通りの作業を実践で身につけていきましょう。

<たねまき>から<たねとり>まで、いのちのサイクルを感じる自然栽培をはじめませんか?

※途中からの参加も可能です。詳しくはPARC事務局までお問い合わせください。

**講義の進め方** 毎回畑で講習を行いながら実習を行います。クラスのメンバーで一つの区画にて一緒に作業を進めていきます。

**オリエンテーション** 2026/3/19(木) 19:00～21:00

会場:東京 DEW と ZOOM を併用しての開催

**畑での実践講習(予定)**

3/22 ※富士見市内の別会場開催 4/5 ※富士見市内の別会場開催 4/19 5/3  
5/17 6/7 6/21 7/5 7/19 8/2 8/23 9/6 9/20 10/4  
10/18 11/1 11/15 12/6 12/20 2027/1/10 1/24



講師 関野幸生

無肥料自然栽培を始めて23年目のプロ農家。無肥料自然栽培の普及のため各地で講演活動を行う。『無農薬・無化学肥料で育てる! おいしい野菜づくり』を共著にて成美堂出版より2023年に出版。

2026年3月～2027年2月

原則として毎月第1・第3日曜日 9:00～12:30(予定)

※終了時間は目安です。作業内容によっては早めに終了、もしくは延長することもありますのでご了承ください。 ※夏の暑い時期には8:00に開始予定。

- 全23回 ●定員:30名
- 菜園の場所:H.S.S圃場 埼玉県富士見市(東武東上線 柳瀬川駅より徒歩20分程度)
- ※場所の詳細につきましてはお申込を完了されたのちにご案内いたします。
- 受講料:66,000円(指導料、農具・資材使用料、保険料込)
- ※オプション企画でプランター作成講習に参加される場合は、別途実費10,000円が必要となります。
- 企画運営協力:H-seed to seed (H.S.S)

**最終講義・振り返り** 2027/2/7(日) 15:00～17:00

会場:東京 DEW と ZOOM を併用しての開催

**オプション企画** 間伐材でプランターづくり!

2027/1/31(日)

※実費10,000円が別途かかります(材料費、送料込)

# ビオダンサ

## ——いきる・おどる・めぐる

ビオダンサ(Biodanza=いのちのダンス)は、南米はチリの医療人類学者、心理学者、教師、詩人のロランド・トーロが、人間の潜在力の回復を願って編み出したダンス・ワークです。

世界中の様々な音楽のリズムやメロディーによって、シンプルな動きを介して、人と人が出会い、行き交う場。そこでは、傍らにいるのは敵でも競争相手でもなく、『自分』を生きようとしている同志。起きていくのは、上手い・下手を超えた、全身まるごとの呼応と脈動です。

なぜ踊るのですか？と聞かれたら、かなりのところまで言葉を尽くして説明できるのかもしれませんが、動きだすその人の中に湧いてくる何かが、その人自身に伝えてくるものにはかなわない。どうぞみなさんの中から出てくるいのちのダンスにふれに来てください。ダンス経験は問いません。

2026年7月～12月

原則として隔週木曜日19:00-21:30

※言葉による導入とシェアリングを経て、ダンスに入っていきます。

※内容や人数等によって終了時間が前後する場合があります。

※各回のクラスの内容は、方法論に基づき一連の流れとして構成されていますので、途中退室は原則としてご遠慮ください。

●全13回 ●定員:16名

●開催形式:対面(千代田区内会場(予定)ほか)

●受講料:55,000円

※日帰りリトリートは現地への交通費・食費・実費などが別途かかります。

### 7/2(木) 《はじまりのとき》

ビオダンサに関する導入的な説明、みなさんからの自己紹介に続いて、さっそく音楽とともに身体を動かして、グループと出会っていきます。

### 7/16(木) 《動く—感じる—動く》

ビオダンサでは感じて動くことを大切にしていますが、言うは易し行うは難しと思う方もおられるかもしれません。エクササイズというきっかけを扉に、まずは動き出してみるところから「感じる」とつながりなおしていきます。

### 7/25(土) 《夏のリトリート》

都内の会場を離れて、1日をかけてゆったりと時の流れを味わいながら、2つのセッションを踊ります。

### 8/6(木) 《動と静を脈動する》

私たちの中にある動と静の力が、互いを補いあいながら私たちの創造や表現を織りなしていく循環を、実際の所作の中から体感していきます。

### 8/20(木) 《他者と出会う、自分と出会う》

クラスは毎回が出会いますが、この回では、自分とは異なる他者としての相手としっかり対峙することで、あらためて自分という存在と出会いなおしていきます。

### 9/3(木) 《動きのよろこびに還る》

身体の中からやってくる心地よさの感覚は、賞賛や承認の対象にはならないかもしれませんが、決してうばわれることのない、たしかなものでもあります。ダイナミックな動きからおだやかな動きまで、瞬間、瞬間の快を謳歌していきます。

### 9/17(木) 《ふれあい》

ふれあうことは、私たちの生命機能の発現や生きる喜びと密接に関わっています。互いの限界も気遣いあいながら、生き生きと巡りだすエネルギーを味わっていきます。

### 10/1(木)《今この瞬間にひらかれる》

私たちの潜在力の発現をとどめようとする枠は、外からやってくるだけでなく、内にも固着しているかもしれません。そこから一歩踏み出す力、委ねる力と出会っていきます。



講師 内田佳子

国際ビオダンサ連盟公認ファシリテーター

ブラジル音楽に惹かれ、サンバチームでの活動を経て、ブラジルの住民運動を支援するNGOに参加。サンパウロでビオダンサに出会い、2000年に初めてビオダンサを日本に紹介。ファシリテーター資格(於ブラジル・サンパウロ校)、養成資格(於イタリア・ミラノ校)、子ども・思春期向けファシリテーター資格(於フランス・リヨン校)を取得。定期クラスやワークショップを開催しつつ、自らも様々なワークショップや勉強会に参加し、身心のつながりを探究し続けている。

【参考ウェブサイト】 日本ビオダンサファシリテーター協会

<https://www.biodanza.jp/>

【ラジオ配信】 Stand FM「いのちのダンス放送局」

<https://stand.fm/channels/621a4bf062fd0d800d75458>

★ビオダンサでは、各自が自分のペースで心地よく動くことを大切にします。からだの声を聴きながら、一つひとつのエクササイズに無理のない形でご参加ください。



### 10/15(木) 《『型』からあふれだす力にふれる》

トーロは、地域・時代・文化にかかわらず、人の普遍的な潜在力を象徴するポーズや、いくつかの所作を重ねていくダンス・シークエンスを提案しました。その内のいずれかを踊ります。

### 10/29(木) 《Untitled》

ここまでのグループの歩みをふまえて、ファシリテーターがテーマを選定してクラスを行います。

### 11/12(木) 《慈しみと再生》

人と人のあいだの慈しみを、トーロはアフェクティビティという言葉で表現し、ビオダンサの根幹に置きました。与え、受け取り、支え、支えられる中での蘇りの可能性に触れていきます。

### 11/26(木) 《Untitled》

ここまでのグループの歩みをふまえて、ファシリテーターがテーマを選定してクラスを行います。

### 12/10(木) 《フィナーレ》

ともに過ごした半年間を振り返りつつ、ひとつのサイクルの終わりを祝って、踊り納めていきます。

#### ビオダンサ神田の森オープンクラス

自由学校の連続講座に先立ち、これまでの受講生の有志が立ち上げた自主クラスです。1回でも複数回でも、ビオダンサを体験できます。音楽に乗って、シンプルで自然な動きを味わうクラスです。

3/26～6/18 隔週木曜日19:00～21:30 全7回

ファシリテーター 内田佳子

●参加費:1回4,000円(U25割:1回2,000円)

※本クラスは19歳以上の方が対象です

●会場:千代田区内施設(お申込み後にご案内します)

詳しい日程、内容、お申し込みは、下記から自主クラス連絡先へお願いします。

<https://biodanzayogikanda.peatix.com/>



## 表現することは生きること

今を生きる新しい視点が見え、ともに生きるエネルギーが湧いてくる講座です。

色々な意味で便利になった現代社会。しかし現代ほど人間が分断され、孤独を強いられる時代はないのではないのでしょうか。

アートは現代社会を反映し象徴するもの。アートという一見曖昧で感覚的な現われの中に、忘れられている大切なものが詰まっています。個人の思想や社会への問題提起から、スパッと割り切れない曖昧な感覚、戸惑い、矛盾や混乱、葛藤といったものまでも、〈感じる〉ことを通じて共有していきます。

この講座では、歴史的に重要なアート作品について「講義・解説」を聞いてアートを理解するとともに、参加者自身が〈表現すること〉〈感じることを〉通じて他者と共有・「ダイアログ」し、時には個人を深掘りしながら表現の原点について、そして社会や自分自身について、より深く理解していきます。

アート・表現することを通じて何かしたい、人とつながりたい方だけでなく、美術やものづくりに苦手意識がある方にこそおすすめです。ひとりで作品と向き合うだけでは見えてこなかった視点や新しい自分自身を発見することができるでしょう。

2026年7月～12月

原則として木曜日19:00～21:30ほか

●全12回 ●定員:20名 ●開催形式:対面(東京DEWほか)

●受講料:52,000円(材料費・画材費込)

※出かける回は現地への交通費・宿泊費・食費・展覧会費などが別途かかります。



講師 中津川浩章

画家/アートディレクター/フリーキュレーター

ブルーバイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティング作品を「記憶・痕跡・欠損」をテーマに国内外で展覧会を開催。アートによる社会変革、「できないことからつながる社会」を目指す。障害者施設「工房集」や「アール・ド・ヴィーヴル」のアートディレクション、展覧会の企画・プロデュース、大学・専門学校でアートを通じたコミュニケーションスキル開発やデザイン・美術教育に携わる。福祉、教育、障害など、具体的な社会とアートの関係性を問い直しつつ、障害の有無にかかわらず、子どもから大人まで、様々な人を対象としたアートワークショップ、講演、ライブペインティング等、全国各地で活動。

7/9(木)

リレーして絵を描く「対話しながら一枚の絵を見てみよう」

参加者全員でリレーして一枚の絵を描き、その後粘土で立体を作ります。マーク・ロスコ、G・パゼリッツ、G・リヒターなど絵を見て感じたことを感じたまま話し共有し表現します。

7/23(木)

「印象派とV・ゴッホとヨーロッパの近代」〈点描体験〉

印象派の成立からヨーロッパの近代を考え、生きづらいゴッホの人生と近代的自我を語ります。モノクロームの画面からカラーへの移行を制作します。静物の明暗を鉛筆で表現。そこから点描の方法で水彩画を描きます。

8/8(土)午後 【美術館を訪ねる】

展覧会を見に行きその印象をダイアログ

美術館にて展覧会を鑑賞し、その印象や感じたことをダイアログし、言葉や絵画で表現します。

※アーティゾン美術館「瀧口修造 書くことと描くこと」を予定。

8/27(木)

プレゼンテーションと講評 その1

前半の講義でつくった作品を囲んで、参加者全員でダイアログします。どんな思いで何を感じながら作ったのか、自分の作品を語ることで気づき、他者の感想を聞くことで新たな発見があることでしょう。

9/12(土)～9/13(日) 【東京近郊で1泊2日合宿】

「自画像は語る」〈様々な視点から自画像を描く〉

なぜアーティストたちは、自画像を描きつけてきたのか？フリーダ・カーロを中心にレンブラント、ゴッホ、ピカソなどの画家の自画像を見てダイアログします。作品を味わった後で、様々な角度から自己を観察し、じっくり時間をかけて自画像を制作します。

9/24(木)

「自分って何だろう？」アートセラピー

〈写真でつくるマンダラ・コラージュ〉

アートセラピーやそれに関係するアート、アーティストについて知り、マンダラ・コラージュの方法を使って体験します。

10/8(木)

みんなでライブペインティング

大きい紙に絵具でライブペインティング。終わってから感想をダイアログ。作品は好きなところをカットして持ち帰ります。

10/29(木)

「夢・表現・シュルレアリスム、作家の田口ランディさんを交えて」〈夢ドローイング〉

ゲスト講師 田口ランディ 小説家

夢は自我や無意識の反映だけでなく、日々の生活や社会からの情報をも反映しています。シュルレアリスムの作品について対話し夢・無意識について考えます。そのあと、夢日記から水彩・クレヨンによる夢ドローイングをします。



11/12(木)

「イメージと記憶の交差点」〈自分だけの写真集制作〉

歴史的に重要なアート、広告写真を見てダイアログします。写真史とともにアンリ・カルティエ・ブレッソン、U・アッジェ、ダイアン・アーバス、広告写真などをレクチャー、ダイアログ、その後自分だけの写真集を作ります。

11/19(木)午後 【神奈川県小田原市を訪ねる】

小田原市のアート施設「アール・ド・ヴィーヴル」を訪ねる

講師の中津川さんがアートディレクターを務める、アートを仕事にする福祉事業所を訪ねます。何故魅力的なアート作品が障害特性がある人たちから生み出されるのでしょうか？ アトリエを見学し、理事長の萩原美由紀さんのお話を聞き、考えます。※施設見学のため、平日の午後の時間帯に訪問いたします。ご注意ください。

12/3(木)

「表現の本質って？」

アールブリュットとアートセラピー〈自由な素材で表現〉

アートセラピーやそれに関係するアート、アーティストについて知り、また、アール・ブリュット、アウトサイダーアートの作家の作品を見て、感じたことを話し、「表現すること」そのものについて考えてみましょう。ワークでは自由な素材で表現します。

12/17(木)

プレゼンテーションと講評 その2

後半の講義でつくった作品を囲んで、参加者全員でダイアログします。これまでに作った作品について、互いに感想や意見を出し合うことで、さらに深めます。アートは誰にでも表現でき、語れると実感することが大切です。時代や状況が変わっても、一人ひとりの生きるエネルギーとしてのアートの本質は変わりません。作って終わりではなく、時代を見る目と表現の楽しさを体験し、語り合きましょう！

## 東へ西へ！ 中津川浩章さんといくアートをめぐるフィールドワーク

このフィールドワークでは、多数のアート作品を世に送り出している福祉施設を訪問し、作品を鑑賞するとともに、創作活動の様子をじっくり見学、体感します。

案内人は、これらの施設の作品のキュレーションなどに携わる中津川浩章さん。訪問先では、各施設のキーパーソンと中津川さんのクロストークを行い、それぞれの特徴を深掘りします。絵画、立体、訳の分

からない創作物など、十人十色、多種多様な作品は圧巻です！ 見学後は中津川さんとともに、表現するとは？生きるとは？ということか、感想を語り合い、交流しましょう。



案内人 中津川浩章

画家／アートディレクター／フリーキュレーター

### in 関東

#### 「アール・ド・ヴィーヴル」「嬉々!!CREATIVE」 「工房集」を訪ねる

2026年5月14日(木)～5月15日(金) 2日間

●スケジュール(予定):

5/14(木)10:00JR小田原駅集合、「アール・ド・ヴィーヴル」見学、萩原美由紀理事長とクロストーク、昼食後移動、「嬉々!!CREATIVE」見学、北澤桃子代表とクロストーク、JR平塚駅近辺にて交流会等。

5/15(金)10:00JR東浦和駅集合、「工房集」見学、宮本恵美施設長とクロストーク、ふりかえり、12:00頃JR東浦和駅にて解散。(希望者でランチ交流会)

●定員:20名 ※最少催行人数:10名

●受講料:26,000円(プログラム費、5/14昼食費、保険代など含む)

※集合場所までと施設間の移動及び解散後の交通費は各自でご負担ください。

※宿泊が必要な方は各自手配ください。

※原則、2日間ともご参加ください。

【訪問先】

●アール・ド・ヴィーヴル(神奈川県小田原市)  
artdevivre-odawara.jp

作品のリースなど企業と連携をしながらアート活動をしている就労B型と生活介護の多機能型の福祉施設です。知的障害の人たちと精神障害の人たちが関わりあいながら、同じ空間の中で表現活動をしている稀有な取り組みも注目されています。



●嬉々!! CREATIVE(キキ・クリエイティブ)(神奈川県平塚市)  
kikicreative.jp

ポップで明るいデザインやイラストレーションに特化した活動をしている福祉施設。と思いきや、実際に行ってみるとかなり障害が重い方もいてそこがまた面白いところです。パワフルで明るい活動が人を惹きつけます。



●工房集(埼玉県川口市など)  
kobo-syu.com

母体であるみぬま福祉会は、埼玉県でも最重度の人たちが集まる福祉施設。「働くことは権利である」という考えのもと、表現活動を仕事として捉え、活動が始まりました。工房集だけでなく近隣にいくつかのアトリエがあり、ユニーク活動で知られる、長く日本の障害者アートを牽引してきた場所です。



### in 関西

#### 「やまなみ工房」「アトリエコーナス」を訪ねる

2026年9月3日(木)～9月4日(金) 2日間

●スケジュール(予定):

9/4(木)13:00JR天王寺駅付近集合、「アトリエコーナス」見学、白岩高子代表理事とクロストーク、カフェにて夕食交流会等。

9/5(金)10:30JR甲南駅集合、「やまなみ工房」見学、カフェにて昼食、山下完和施設長とクロストーク、ふりかえり等。16:30頃JR甲南駅にて解散。

●定員:20名 ※最少催行人数:10名

●受講料:32,000円

(プログラム費、9/4夕食交流会費、9/5昼食費、保険代など含む)

※集合場所までと施設間の移動及び解散後の交通費は各自でご負担ください。

※宿泊が必要な方は各自手配ください。

※原則、2日間ともご参加ください。

【訪問先】

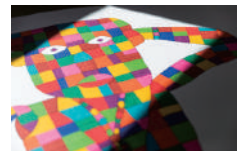
●アトリエコーナス(大阪府大阪市)  
corners-net.com

1993年、障がい者の母親達が「どんな重い障害を持っていても地域で生きる一normalization」の理念を実現するため設立。「ひとり一人が自己を自由に表現するアート活動を始めよう！」と、2005年には戦前の面影を残す古住宅街の町屋を改修した施設を作り、内職仕事をやめアート活動に舵をとり直しました。



●やまなみ工房(滋賀県甲賀市)  
a-yamanami.jp

知的や精神、身体に障害を持つ約90名の利用者と約20名のスタッフがともに過ごすアートセンター&福祉施設。一人ひとりの興味や関心を見つめ、活動を行うことで、結果として人々の心を打つ多数のアート作品を生み出している。これまでにNHKなどのテレビ番組で取り上げられるほかパリ、ニューヨーク等へも作品を多数送り出している。



## まるごと知ろう・足尾鉍毒事件と田中正造ツアー

足尾鉍毒事件は、栃木県・渡良瀬川周辺で起きた、明治時代最大の公害事件です。銅の精錬所から出た排煙、鉍毒ガス、鉍毒水が環境を破壊、1890年代から栃木の政治家であった田中正造が中心となって、国や企業を相手に闘いを挑みましたが、敗れました。原因が古河鉍業にあることが断定されたのは、1974年。そこに至るまで一世紀の時間を要しました。精錬所は1980年代まで稼働し、21世紀の今も影響が残っています。このツアーでは、地元の語り部・研究者に現場でレクチャーしていただき、その全貌を深く学びます。

### 【訪問先】

田中正造ゆかりの場所／田中正造記念館／足尾銅山および鉍害の現場／渡良瀬遊水地 など

### 案内人(予定)

赤上剛 田中正造研究者

篠崎清次 小口一郎研究会代表

### コーディネーター

永田浩三 ジャーナリスト／武蔵大学名誉教授

※詳細は決まり次第Webサイトに掲載いたします。



## アクションツアー沖縄2026 抵抗と連帯の現場から

渦中の島、沖縄は私たちに多くの問いを投げかけます。

辺野古新基地建設をはじめ、自衛隊基地の建設が強行され琉球弧(南西諸島)の軍事強化が進む現状や、全国にも広がるPFAS問題、市民運動を規制するような土地規制法など、沖縄と日本をめぐる現状は深刻さを増しており、抵抗運動を続ける人びとへの弾圧は厳しくなる一方、緊迫した状況が現地では続いています。

このツアーでは沖縄島の各地を訪問し、私たちが抗議の意思を訴えながら、基地や戦争に反対する思いを共にする人びとと交流します。

沖縄各地の活動の現場と歴史を巡り、人びとと出会いながら繋がることで、ともに社会の暴力に立ち向かうために何ができるのか、考えてみませんか。

学び、出会い、歩き、動き出すための旅です。

### 【訪問先】(予定)

辺野古での抗議行動に参加/シュワブゲート前テント/名護市安和、本部町塩川での土砂搬出の抗議行動に参加、嘉手納基地見学、普天間基地見学など

※詳細は決まり次第Webサイトに掲載いたします。

※本ツアーは那覇空港集合・解散になります。

※11月開催を予定しております。

## 資本主義の向こうにある社会を見出す 社会的連帯経済を探す旅2026

地域での包摂的な連帯関係を基盤に、様々な社会課題に直面する当事者が生きていくことのできる経済(サブシステム・エコノミー)を作っていく。そんな経済のオルタナティブが必要とされています。

他者や自然に対するケアや責任を取り戻し、コモンズと共に自治的なコミュニティを再生する。資本主義では解決できない社会課題を解決するために、異なる価値観を紡ぐ、そのような一連の活動を私たちは「社会的連帯経済」と呼んでいます。

2025年度は、被差別部落や障害者支援といった人権運動から発展し

て、包摂的な地域づくりを展開している関西の2つの地域を訪れました。

2026年度は、東日本の地域から2か所を訪問する予定です。実践の現場から一緒に学びましょう。

### 【共催】

アジア太平洋資料センター(PARC)・社会的連帯経済推進フォーラム

※詳細は決まり次第Webサイトに掲載いたします。

### 福島の有機棚田でお米づくり体験

### PARC 田んぼの会2026

福島県二本松市東和地区で有機農業を続けている菅野正寿さんの有機棚田の一部をお借りして、有志でお米作り体験をする「PARC 田んぼ」。田植え、草取り、稲刈りといった農作業体験に加え、棚田を支える生物多様性を学んだり、福島の現状や原発の影響を伺ったり。夏には蛍狩り、秋には案山子づくり体験も予定しています。昨年、収穫した天日干しのPARC米は、「モチモチして甘みがすごい！」

と大好評！自分で育てたお米を味わってみませんか？  
募集告知はPARCメール通信(登録無料)で発信します。ぜひご参加ください！

【訪問先拠点】あぶくま高原遊雲の里ファーム(菅野さん宅農家民宿)

<https://yuunosato.jp/>

# 全国の自由学校ネットワーク

自由学校は学びの草の根ネットワークです。全国各地でそれぞれの地域に根差した個性的な自由学校が開講されています。また「自由学校」と名乗ることがなくても、地域で市民のための学びの場を提供する取り組みが全国に多数あります。

## ● さっぽろ自由学校「遊」

北海道・札幌に拠点を置く「市民がつくる、市民の学びの場」です。今年度も、先住民族をめぐるテーマや地域における開発・環境問題を取り上げる講座など、多彩な講座や学習会を開講予定です。オンラインで参加可能な講座も多数準備していますので、北海道外の方もお気軽にご参加ください。

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目 愛生館ビル5階 501  
TEL:011-252-6752 FAX:011-252-6751  
syu@sapporoyu.org  
<https://sapporoyu.org/>  
<https://www.facebook.com/sapporoyu>

## ● おたる自由学校ワオキツネザル

2024年、念願がなつて『おたる自由学校ワオキツネザル』が誕生しました！初代校長は花崎皋平さん、事務局長は大和田友子さんです。相談役には松田潤さんと神聡子。少人数でいろんな年代の方が集まれる「居場所」になることを目標にしています。歌あり、体操あり、学問あり。講師&受講者随時募集中です！さっぽろ自由学校と共同でのイベントも楽しみです。  
※1～3月は坂道の多い小樽は雪の問題があり休校。

絵本と環境雑貨ワオキツネザル気付  
TEL:0134-61-6355(火～金11時～16時)  
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100057313395474>  
<https://otarujiyugakko.wixsite.com/my-site-1>  
[instagram.com/wookitsunezaruw](https://www.instagram.com/wookitsunezaruw)

## ● 八王子市民のがっこう「まなび・つなぐ広場」

東京の西の端、八王子市を中心に市民のゆるやかなつながりの中で生まれた学習グループです。2011年の東日本大震災／福島原発事故後の取り組みからスタートし、さまざまなテーマの講座やワークショップ、上映会などを不定期に開催しています。民衆交易品や地域の福祉NPOのウェルフェアトレード品を紹介する「くらし・つなぐストア」の活動も細く長く続けています。

キャッチフレーズは、「未来の人たちに手渡せる社会を選びとろう」。最近の情報はfacebookへ。

〒192-0082  
八王子市東町3-4 アミダステーション気付  
メール manabi.tsunagu@gmail.com  
<https://www.facebook.com/843kozpage/?ref=bookmarks>  
<https://www.facebook.com/kurashitsunagu>

## ● PP21 ふくおか自由学校

PP21の国際民衆行事から生まれて、今年で37年目になります。

今年のテーマは、覇権主義や植民地主義、排外主義がはびこり憎悪と暴力があふれる世界で、日本の社会の現在を検証し、朝鮮半島の人々や身近な隣人との共生について考えます。

6月に開講し、講座やフィールドワーク、島唄ライブなどを行う予定です。昨年までの様子はウェブページをご覧ください。

〒815-0083  
福岡市南区高宮4-10-41 パウリスタ工房気付  
TEL:080-6406-9251 / 090-4357-7596  
ohyamayairochou@yahoo.co.jp  
<http://fukuokafreeschool.web.fc2.com/>

## ● NPO 法人泉京・垂井

NPO 法人泉京・垂井は、垂井町に暮らす住民誰もが、垂井町のまちづくりに自ら参画し、行政、事業者・企業などと協働してまちづくりに関する事業を行い、「より幸福度の高いまち・垂井」を実現することを目指しています。

オーダーメイドで大学などの教育機関、NGO・NPOなど、事業者・企業などの研修を受け入れる、SDGs 非常利コンサルティングにも力を入れています。日本の農山村から国際協力・SDGsについて体感してみましよう！

〒503-2124  
岐阜県不破郡垂井町宮代1794-1  
TEL 0584-23-3010 FAX 0584-84-8767  
info@sento-tarui.org  
<https://sento-tarui.jimdofree.com/>

## ● あどぼ・していずんプロジェクト

あどぼ・していずんプロジェクト(あどぼの学校)は、全国のNGO/NPOの仲間で作るアドボカシーの学びと実践のプラットフォームです。

2026年度春季は、アドボカシーの担い手講座「あどぼの学校」基礎編を全3回で開催するほか(右記)、秋季は同講座の実践編や、全国のアドボカシーに取り組むNGO/NPOの仲間が集まり、知見や経験の交流を行う「あどぼのプラットフォーム会合」の実施を計画中です。

また、2025年末に公開した、ポストSDGs時代(2030年以降)の市民社会とアドボカシーのあり方を展望する「ビジョン文書」の改訂も進めています。詳しくは下記公式ウェブサイト、Facebookページをご覧ください。

<https://www.advo-citizen.org/> <https://www.facebook.com/advo.citizen>

### あどぼの学校 2026 年度春季講座 「アドボカシーの基礎を学ぶ」

【日程】5/9、6/13、7/11の土曜 10～12時

【開催形式】オンライン (ZOOM)

【参加対象】アドボカシーに関心がある人、実際に取り組みたい人

【参加費】無料 (任意のご寄付を申し受けます)

【詳細・申込】<https://www.advo-citizen.org/post/advo-school2026spring>

## お申し込み方法について

1. ウェブサイト (parcfs.org) からの申し込みが便利です(クレジット決済可能)。メール・電話でのお申し込みも可能です。

申し込み締切: **2026年5月29日(金)**

※締切後の申し込みおよび途中参加についてはお問い合わせください。

2. お申し込み後、メールまたは郵送にてご案内をお送りします。お支払い方法として振込みをご希望の方には、郵便局・銀行口座の情報をご案内します。受講料のお支払いをもってお申し込み手続き完了となります。定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

※領収証の発行をご希望の方は、PARC事務局までご連絡ください。

3. お申し込み・ご入金いただいた皆さまには、開講日2週間前をめどに、講座の詳細についてご連絡いたします。

## 入学金・受講料について

◎自由学校連続講座を初めて受講される方は、受講料の他に入学金10,000円が必要です。(入学登録後は、以降の年度でのお支払いは不要です。)

◎お支払いいただいた入学金・受講料は、講座開講中止の場合を除き払い戻しできません。ご了承ください。

◎消費税はすべて内税です。

◎入学金・受講料とも原則一括でお支払いください。分割入金をご希望の方は、事務局までご相談ください。

## 割引制度について

◎若者応援! <U25割>/<U30割>:25歳以下の方は講座番号01~08,10の講座を、30歳以下の方は講座番号09の講座を、特別割引受講料5,000円(入学金免除)にて受講いただけます。

## 講座の開講形式について

オンライン講座、対面講座、両者を組み合わせたハイブリッド講座がございます。開講形式の詳細は各講座ページをご確認ください。なお、オンライン講座はzoomを利用する予定です。

## 連続講座受講生が 利用できるサービスについて

### ●講座録画(または録音)のアーカイブ配信・配布資料の閲覧

ご自身が受講されている連続講座については、講座終了後に講義内容の録画(または録音)の視聴および配布資料をインターネットでご覧いただけます(原則、2026年度内に限る)。復習や欠席された際にご活用ください。ただし、講師の事情等により共有できない場合や、出かける回や作業が中心の講座など録画(または録音)されない講座もあります。また、質疑応答等は省略する場合があります。予めご了承ください。

### ●他の連続講座の単発受講(越境受講)

通常、連続講座は全ての回数を通して受講いただくことが前提ですが、同年度に連続講座を一講座でも受講いただいている方は、「越境受講料」をお支払いいただくことで、他の連続講座の単発受講(越境受講)が可能になります。越境受講が可能な講座や越境受講料等の詳細については、お申込みいただいた方に追ってご案内いたします。

### ●オンライン受講のサポート

オンライン参加にあたり、接続等に不安のある方はPARC事務局までご相談ください。ご参加のためのサポートをいたします。また、機材やインターネット環境に不安のある方は、PARC事務局にてオンライン講座にご参加いただくことも可能です。

※講師など、掲載されている方の肩書きは2026年3月時点のものです。

## PARC 自由学校での感染症対策について

○対面開催の講座については、感染症の状況により、講座日程の延期や中止、あるいはプログラムの一部変更の可能性があります。

○講座開催時の感染症の状況に応じて、受講生間の間隔確保や換気、消毒、飛沫拡散防止など必要な対策を行います。またご参加の皆様にはマスクの着用や消毒、検温などのご協力のお願いをさせていただきます。

○感染予防のため、発熱やせきなどの症状がある場合、体調不良の場合には対面でのご参加はご遠慮ください。



## PARC 自由学校

[メイン会場] 東京DEW

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-4-7

- 東京メトロ「早稲田」駅 2 または 3ab 出口より徒歩8分
- 東京メトロ「西早稲田」駅 2 または 1 出口より徒歩11分
- 都電「早稲田」駅より徒歩10分
- 都バス「西早稲田」バス停より徒歩3分

## PARC自由学校 access map

お申し込み・お問い合わせ

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター (PARC)

PARC 自由学校

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-4-7 東京 DEW

TEL:03-5209-3455 FAX:03-5209-3453 Email:office@parc-jp.org

郵便振替 00100-2-606697 PARC 自由学校

ゆうちょ銀行 〇一九支店 (019) 当座口座 0606697 PARC 自由学校

より詳しい情報については、PARC 自由学校ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.parcfs.org/>

PARC 自由学校

検索

こちらでも情報発信中！



@parc\_jp

